

残留農薬のポジティブリスト制度が 平成18年5月29日から施行されます。

農林水産省農業機械等緊急開発事業において、

ドリフト低減型ノズル

が開発されました。

ドリフト（漂流飛散）
しやすい微細粒子を
大幅に削減

各種ブームスプレーヤ
及び動力噴霧機に装着
可能

作業能率及び農薬付着
性能は慣行ノズルでの
作業と同等



慣行ノズル



ドリフト低減型ノズル

残留農薬のポジティブリスト制度とは...

- 食品衛生法が改正され、残留農薬のポジティブリスト制度が平成18年5月29日からはじまります。
- この制度では、今まで残留農薬基準値がない農薬にも、0.01ppmという低い数値が基準値として設定されることになります。
- この基準値をオーバーしてしまうと、生産物の出荷停止・回収などの対応が求められる可能性がありますので、農薬のドリフト（漂流飛散）に対して、これまで以上に細心の注意をはらうことが必要です。

『ドリフト低減型ノズル』は、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構が農業機械メーカー等との共同研究により開発し、新農業機械実用化促進（株）が実用化を促進しています。

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構
生物系特定産業技術研究支援センター
新農業機械実用化促進株式会社

ドリフト低減型ノズル

各種ブームスプレーヤに装着でき、水稻やキャベツなど園芸作物に幅広く利用できる、以下の2つのタイプを開発しました。



空気混入型



空気非混入型

空気混入型 (1)

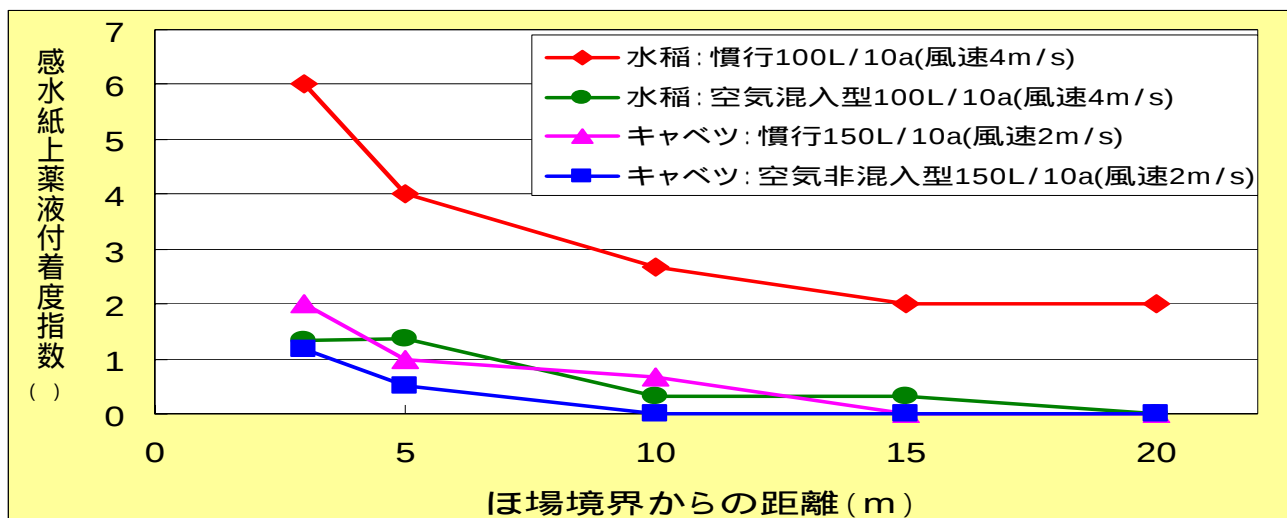
噴霧平均粒径が慣行ノズルの3～4倍(240～330 μ m)で、薬液の付着性能を維持しつつ、ドリフト要因となる農薬微細粒子を1/4程度に削減

空気非混入型 (2)

噴霧平均粒径が慣行ノズルの約2倍(110～180 μ m)で、薬液の高い付着性能を維持しつつ、ドリフト要因となる農薬微細粒子を半減

(1)市販済み (2)近日中に市販予定 [平成18年3月現在]

開発ノズルのドリフト低減効果(試験データ)



() 感水紙上薬液付着度指数とは、水滴に反応して色が変わる特殊な紙を用いて、薬液の付着液斑の被覆面積率を0～10の11段階で指標化したものです。

ブームスプレーヤ装着時での主な注意事項

- 作業前: ブームスプレーヤに開発ノズルを装着する際、取付部ねじなどの仕様が異なる場合は異径継ぎ手(アダプタ)で対応してください。また、開発ノズル装着後は、噴霧ポンプを駆動して、取付部や配管系からの液漏れの有無、噴霧圧力等の確認・調整を行い、作業時の10a当たり散布量が所定の値となるように、噴霧量、走行(作業)速度を設定してください。
- 作業時: ドリフト防止の観点から、できるだけ風の弱い条件で作業を能率良く行ってください。
- 作業後: ノズル、配管系、薬液タンク等の洗浄を十分に行い、散布対象農薬とは異なる別の農薬成分による汚染が生じないように十分注意してください。

【開発ノズルの試験研究に関するお問い合わせ先】

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構
生物系特定産業技術研究支援センター
生産システム研究部
〒331-8537 埼玉県さいたま市北区日進町1-40-2
Tel.048-654-7000 / Fax.048-654-7132

【パンフレットに関するお問い合わせ先】

新農業機械実用化促進株式会社業務部
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-12-3
Tel.03-3233-3834 / Fax.03-3233-3800
E-mail: shinnouki@gol.com

注: ドリフト低減型ノズルについては、以下の企業において取り扱っています。

株式会社 共立 (TEL0428-32-6181)、株式会社 丸山製作所 (TEL03-3252-2271)、ヤマホ工業株式会社 (TEL0738-53-0321)